



サンビオティック農業で大豊作！

じゃがいも（馬鈴薯） 栽培基準



◆本圃◆					
時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
1～2月	土づくり	菌カアップ	5～10リットル	全面散布	そうか病対策のため、土壌pHは5.0～5.5を目安に調整し、石灰や堆肥の投入は厳禁とする。 土壌消毒をする場合は、土壌消毒後（ガス抜き後）に菌カアップを10リットル（100倍希釈）を全面散布し、混和する。消毒・施肥・畝立て・被覆を同時処理する場合は、消毒ガスが抜けた後、菌カアップ10リットル（50倍希釈）を畝に「灌注」する。さらに、通路にも菌カアップ100倍希釈を十分散布しておく。
	元肥	有機百倍 過リン酸石灰 硫酸加里 硫酸マグネシウム	5～7袋 5袋 20kg 20kg	土壌混和	定植2週間前までに土壌混和する。品種、作型、地力等によって、有機百倍の施肥量は調整する。鈴成は、土壌pHを上げるため過リン酸石灰を使用する。過リン酸石灰には、第一リン酸カルシウムと硫酸カルシウムが含まれており、カルシウムは空洞果予防や収量増に効果的であるため、一石二鳥である。病害や褐色芯腐れ、空洞化の出やすい圃場では、ほう砂0.5～1kgも元肥に施用する。
2～3月	発芽後	菌カアップ 糖カアップ コーソゴールド	10リットル 5kg 5kg	株元灌注（または灌水） 10日おきに2回以上	発芽後、菌カアップ、糖カアップ、コーソゴールドを混用・希釈して、株元灌注（または灌水）する。数回実施することで、成長促進と、シストセンチュウ対策とする。疫病、青枯病、軟腐病などの心配がある場合は、糖カアップをやめて、本気Ca（マジカル）を3リットル、菌カアップ、コーソゴールドとともに株元灌注（または灌水）する。数回実施すると、耐病性が高まる。
4月下旬～5月上旬	（追肥） 被覆なしの場合のみ	有機百倍 硫酸加里	2袋 10kg	追肥	マルチによる被覆なしの作型（露地）の場合は、肥料分の流亡があるため、着蕾直後（肥大開始期）に追肥し、培土する。硝酸カルシウムと硫酸加里でもよい。
5～6月	肥大促進 病害対策	コーソゴールド 本気Ca（マジカル）	500倍希釈 2000倍希釈	15日おきに葉面散布	開花期および肥大期に、コーソゴールドと本気Ca（マジカル）を混用し葉面散布する。病害抵抗性を向上し、収量や品質を向上する。農薬との混用可。 日照不足時には、マジ鉄5000倍を加用すると、葉の活性維持と光合成能力の向上になる。 疫病やアブラムシの発生時には、本格にがり500倍を併用する。農薬の混用可。

※できれば土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。
※九州春ばれいしょの作型を例示していますが、時期等は地域によって読み替えてください。